

タイトル

『汐製菓会社の新作』 今川焼 3』

登場人物

- ・ 汐（しお）… 30代の汐製菓会社社長。
「面白きことも無き世を面白く」を信条に、次々と奇抜なアイデアを繰り出す革新者。大胆で天真爛漫。
- ・ 塩田（しおた）… 30代の秘書。堅実で慎重、心配性だが、隠れお菓子好き。汐の突飛なアイデアに振り回されるが、結局は協力してしまう。
- ・ 国内のお客 A… 中年の和菓子職人で、保守的な考えを持つ。新作に懐疑的。
- ・ 国内のお客 B… 若者のインフルエンサー。トレンドに敏感。
- ・ 外国のお客 C… パリから来た女性バイヤー。斬新なものに目がない。

・ 外国のお客 ☪ …アメリカの料理研究家で、日本の食文化に興味津々。

第一幕…奇想天外なアイデア誕生

第二幕…試作の苦戦

（試作室で、汐と塩田がエプロンを着けて試作に取り掛かっている。かき揚げを揚げ、今川焼の生地を準備する様子が描かれる。塩田は慎重に材料を測り、汐は無邪気にあれこれと指示を出す。）

塩田…「社長、本当にかき揚げを中に入れるんですか？しかも、この生地で包むなんて…破れそうですけど。」

汐（自信満々に）…「大丈夫、大丈夫！この生地は特製だから、なんだって包み込めるさ。ちよっとやってみなよ、塩田くん！」

塩田（苦笑いして）…

「ええ、やってみますけど…。あれ、やっぱり油が…あ、こっちが破れちゃいました。」

汐（楽しそうに）…

「ほらほら、そこは少し生地を厚くするんだ。お菓子作りは実験みたいなものだよ。何度も失敗して、最高の味を見つかるんだ！」

塩田（心配そうに）…

「まあ、実験っていうか…ちよっとおかしい実験ですけどね。普通のお菓子の範疇を超えてますよ、これは。」

（塩田が恐る恐るかき揚げ入りの今川焼を揚げている。油が飛び、少し焦げ臭いが、なんとか形にはなる。）

塩田…「できましたけど、どうですかね…？」

（汐、早速一口かじる。）

汐（満面の笑みで）…

「うん！完璧だ！サクサクのかき揚げとモチモチの生地、これが新しい日本の味だよ！」

塩田（半信半疑で）…

「…美味しいかもしれませんが、うーん、何かが違う気もしますね。もう少し甘さを入れるとか、どうですか？」

汐：「甘さなんていらない！このままがいいんだ！さあ、これを試食会に持って行こう！」

第三幕：試食会での波乱

（試食会場には、国内外のバイヤーやインフルエンサー、一般の消費者が集まっている。華やかな雰囲気、新作『かき揚げ味の今川焼』が並べられる。汐がプレゼンテーションを行っている。）

汐：「皆さん、これは新しい日本の味です！

今までにない『かき揚げ味の今川焼』を、ぜひ
味わってください！」

（客たちは興味深々だが、一部は戸惑っている。）

国内のお客A（中年の和菓子職人、眉をひそめて）：

「かき揚げ味？和菓子じゃないじゃないか、これは。」

国内のお客B（若者インフルエンサー、スマホを手に）：

「これは絶対SNSで話題になるやつ！すぐに
写真撮ろう！」

外国のお客A（パリのバイヤー、試食して感激しながら）：

「これは美味しいわ！今まで食べたことのない
味！パリで間違いなくヒットするわね！」

外国のお客田（アメリカの料理研究家、興奮

して）：

「This is genius. 日本の伝統とモダンな要

素をミックスして、まさに新しい風を感じる

よ。」

塩田（少し不安そうに会場を見渡しながら

心の声）：

「（心の声）国内では戸惑いの声も多いけど、

海外のお客さんには意外と受け入れられてる

みたい…。まさか本当に成功するかも？」

第四幕…国際的な成功と次なる挑戦

（試食会后、社長室に戻ってくる汐と塩

田。）

塩田：「社長、正直に言うと…驚きました。

海外のお客さんにはすごく評判が良かったで

すし、国内でも若い層には受けてましたね。でも、次はどうするんですか？」

汐（自信満々に、次のアイデアを語りながら）…

「当然、次は世界だ！パリとロンドン、そしてニューヨークで『かき揚げ味の今川焼』を広めるんだよ！」

塩田（半分呆れつつ、でも微笑んで）…
「本当にやるんですね…。でも、なんだかんだで私も楽しみになってきました。」

汐（笑顔で）…
「そうだよ、塩田くん。人生は冒険だ。次は『天ぷら味のチーズケーキ』とかどうだ？」

塩田（冗談っぽく）…
「社長、もうやめましょうよ…って言いたいけど、まあ、面白そうです。」

(～人は笑い合いながら、次なるプロジェクト
に向けて動き出す。)

終わり